

まず、「一回調べた単語はマーカーで塗る」ことです。この作業をすることで、2回目以降その単語を引いた時、以前に調べたことが分かります。このとき、「もう2度と調べなくていいように今！この場で覚えよう！」という気持ちを持つことで、記憶力がアップするように思います。

そして、近くにある派生語も見ておきます。似たような形の単語を毎回調べるのは正直嫌になります。だから普段から派生語や周辺の単語をチェックしておけば「前見たことがある！」とすぐ受け入れられるので、後日調べる手間も減少し、効率よく学習できます。

2. 単語から直接、事象や行動をイメージする。

日本語で「リンゴを想像しろ」と言われて、「バラ科リンゴ属の落葉高木樹になる実のこと」と考える人はまずいません。ほとんどの日本人はリンゴと言われたら赤くて丸い果実を想像すると思います。では、外国語の場合はどうでしょうか。僕はドイツ語の文章を読むときやドイツ語で会話をする時、日本語を通さず、ドイツ語から直接、場面や物をイメージし、イメージから直接ドイツ語にすることを意識しています。日本語を使わないという意識を持つようにしてから会話能力が上がりました。

共通して言えるのは意識を変えるという事です。覚えようという意識、ネイティブのようだという意識。そして、意識という面で、日常の何気ない一言から外国語を使うようにしています。



小さい子がいきなり会話できないのと同様に、習い始め、使い始めは「おいしい！」とか「すごい！」とか、簡単な表現から入り、だん

だんと会話に必要な単語・文法を、上記の1・2を使って覚えるのが僕のやり方です。

私のフランス語勉強法

経済学部2年 加藤奈央

外国語を勉強するとき、リスニングに苦労することがよくあります。意味のわからない言葉で、早口にまくし立てられる。その上、日本語にはない音もたくさん出てきたりする。日本語とはやっぱり違うなあと、しみじみ実感します。

ここでは、そんなリスニングについての個人的な勉強法を紹介してみたいと思います。

「リスニングは、一応はただ聴いていればいいだけだから、こんな気楽な勉強はない。」そう思って、大学でフランス語を勉強することになった私は、フランス語のCDを手に入れると、とりあえず暇なときにひたすら漠然と聴いていました。さて、それでフランス語のリスニングの力は付いたのか？

結論から言うと、私はCDを聴いただけでは、フランス語を聴きとれるようにはなれませんでした。もちろん、全くの無駄だったわけではありません。聴きとれる単語も増えるし、なんとなくフランス語に親近感を感じるようになります。この違いは大きくて、肩の力を抜いて、気楽にフランス語が勉強できるようになりました。「ふむふむ、なるほど」と余裕で聴きとる、さらにいえば、頭をフル回転せずにほとんど推測なしで聴きとる、というレベルまでには達しませんでした。フランス語に対する恐怖心とか威圧感のようなものが激減しただけでも、その後のフランス語の学習にすごく役立ったと思います。

1枚のフランス語のCDをほぼ完璧に聴きと

れるようになるには、漠然と聴いているだけでは駄目なようです。ほぼ暗記したその1枚のCDを、なるべくそっくりそのまま復唱するところまで行って、やっとフランス語が随分聴き取れるようになりました。1つ難点といえば、気が遠くなるほどにうんざりする、苦勞するという点だと思います。しかし、それを何とか乗り越えたと、不思議と簡単に聴きとれるようになるので、苦勞する価値はあると思います。フランス語がある程度聴きとれるようになると、うれしいし面白いし、単語やフレーズをいつの間にか覚えていて、仏検の（リスニングの問題だけでなく）筆記のときにも役立ったりします。

リスニングで苦勞することも多いのですが、それと同時に、役に立ったり勉強になったりすることだってたくさんあります。ぜひ、フランス語のリスニングにも力を入れてみてください。

中国語を学んで

～検定試験に挑戦～

経営学部2年 樽林恵子

私が中国語を学習するにあたって、そのきっかけは一年生の時に必修であった中国語の授業でした。需要が高まる中国語を学習し、検定に取り組み合格することは、四年生での就職活動や仕事関係に役立つのではないかと考え、二年生になってから早速中国語検定4級を申し込みました。

申し込む以上、合格することを第一の目標にしました。初めてこの検定を受験する私にとって、4級というある程度学習が必要な級を受験することは、自分の語学レベルを把握し、出題の流れをつかむということも目的でした。今回は、語学の先生のアドバイス等のおかげもあり一回で合格することができました。合格するのにもかなりの学習時間を費やしたのも事実

です。一年生の春休みに問題集を購入し、コツコツとひたすらに過去の問題を解いていました。学校が始まると授業の課題やレポートに追われ、なかなか検定の勉強に割く時間が取れなかったけれども、問題集一冊を常に持ち歩き、暇な時間さえあれば問題の一つや二つを解いて、知識をつけようと思いました。繰り返し問題を解くことで、自分の苦手な部分を発見し、そして克服していくことで、確実に知識が身についてくるだけではなく、出題傾向も見えてきて、どこを重点的に勉強すれば合格に近づけるかということにも繋がりました。

問題の中には、ピンイン表記や声調の変化に関する問題があります。私にとって苦手な分野でした。生活の中で中国語に触れ合う機会がまだ少ないのもありますが、触れるとしても、日本人の私には聞き取れない声調・発音が多数あるため、リスニングで区別するのが難しかったです。そのほか、中国語は漢字で書かれているため、見れば意味はわかるだろうという考えを持つ人は多くいるでしょう。けれども、中国には簡体字というものがあり、日本で使われる漢字がくずれた風に書かれています。その単語が何を意味しているかを理解するのも大変です。なので、英単語のように単語を暗記することも大切です。どの語学にも通じることですが、単語を多く覚えることで大雑把に内容を理解することができます。

私は中国語の勉強を始めてまだ一年しか経っていません。こうした普通の学習法でも、検定に挑戦することは可能なので、中国語に興味や関心のある方はぜひ自分の力量をためす機会として受験してみたいかがでしょうか。